

市長	比田勝尚喜君
副市長	俵 輝孝君
教育長	永留 和博君
総務課長（選挙管理委員会事務局書記長）	桐谷 和孝君
しまづくり推進部長	伊賀 敏治君
観光交流商工部長	村井 英哉君
市民生活部長	二宮 照幸君
福祉保険部長	乙成 一也君
健康づくり推進部長	松井 恵夫君
農林水産部長	黒岩 慶有君
建設部長	佐々木雅仁君
水道局長	立花 大功君
教育部長	八島 誠治君
中対馬振興部長	波田 安德君
上対馬振興部長	森山 忠昭君
美津島行政サービスセンター所長	瀧川 昌浩君
峰行政サービスセンター所長	藤原 亘宏君
上県行政サービスセンター所長	原田 勝彦君
消防長	主藤 庄司君
会計管理者	阿比留 裕君
監査委員事務局長	内山 歩君
農業委員会事務局長	主藤 公康君

---

午前10時00分開議

○議長（初村 久藏君） おはようございます。

総務部長、木寺裕也君から欠席の申出がっております。

ただいまから議事日程第2号により、本日の会議を開きます。

---

**日程第1. 会派代表質問**

○議長（初村 久藏君） 日程第1、会派代表質問を行います。

本日の登壇は、2会派を予定しております。

それでは、届出順に発言を許します。新政会、6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 皆さん、おはようございます。

初めに、本年9月定例会で、明るい安全なまちづくりとして、巖原町大町通りの一部が暗いと  
の御指摘を受け、街灯設置のお考えを質問いたしました。現状のデザインはまちづくり推進委  
員会で御決定とのお答えを頂きました。

その後、近隣の方々から、やはり暗い、また市内で発行の新聞のコラムに、9月定例会での私  
の質問内容が掲載され、町並みの景観と安全性に若干の乖離があるように感じられております。

9月定例会での市長のお答えは、事業主体は長崎県とのこと、町並み・景観を重視したのは十  
分理解できますが、一定の明るさで安全なまちづくりも重要と考えていますので、再考をお願い  
をいたします。

それでは、本題に入ります。

さて、本日は会派代表質問の機会を与えていただきました。新政会の伊原と申します。よろし  
くお願いいたします。

昭和から平成・令和時代における本市の変遷、サブタイトルに、将来を担う子どもたちへの継  
承についてを質問させていただきます。

日本気象協会のデータによりますと、昭和元年から令和元年までの94年間で、平均気温が  
1.4度上昇し、海面は2メートル高くなったと報告をされております。このことは、18世紀  
の産業革命以降、化石燃料の需要が高まり、二酸化炭素が急激に増えたため、21世紀を迎えた  
今、地球規模での温暖化現象となり、世界の各地で、また国内でも大規模な自然災害が発生する  
など、人々の暮らしに多大な影響を及ぼしています。

本市でも、近年の異常気象によって、大雨洪水による河川の氾濫などの自然災害、さらに温暖  
化の影響もあり、海水温の上昇、豊富であった藻場消失により、ヒジキ、ワカメ、カジメや魚介  
類など海の恵みそのものの資源が失われ、海で暮らす人々の生活の支えに大きな影響を及ぼして  
います。

このように、気候変動により消失した海藻類や魚介類など、資源の恵み回復に向けた取組はど  
のような対策を講じられているのか、お尋ねをいたします。

次に、本市の面積の9割を占める森林の状況でございますが、うち個人所有、民有林の割合は  
92%ですが、所有者の高齢化などにより、杉やヒノキなどの人工林の手入れ不足が多々見受け  
られます。

さらに、一部でございますけれども、地域によっては農地の多くは耕作放棄地が確認されるな  
ど、私の幼少時代の古きよき時代背景を育んだ世代から想像すらできない状態に突入したと言え  
ます。

今を生きる我々昭和世代の責務として、将来を担う子供たちへ、この自然豊かな島での平穏な

暮らしを継承するための施策はどのように進められているのか。また、将来における本市の姿づくりを含め、その取組についてお尋ねをいたします。

なお、本日は、関連質問といたしまして、第1次産業の漁業関連につきましては、会派のベテランでございます作元議員に託していますので、どうぞよろしくお願いいたします。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） おはようございます。新政会、伊原議員の質問にお答えいたします。

対馬市沿岸では、温暖化等の複合的な影響により、藻場を取り巻く環境はこの20年近くの間大きく変化し、アラメ、カジメ、ヒジキ等の大型褐藻類の衰退現象が発生し、磯焼けの拡大が深刻化しております。

現状としまして、近年の海水温の上昇に伴い、藻場の回復阻害要因として、これまであまり問題にならなかった植食性魚類の食害が顕在化し、藻場の形成時期や構成種のほうが大きく変化しております。

このため、磯焼け対策として、市内全域の漁業集落において補助事業を活用した食害魚の駆除や海藻類の種苗投入等様々な取組を実施していただいているところではありますが、なかなか有効な成果につながっていないのが現状であります。

このような状況を踏まえた今後の取組といたしまして、まずは既存海藻種の維持、回復に向けて、各漁業集落が主体となり、全域で連携を図りながら食害魚、ウニの駆除を継続して行う必要があると考えております。

同時に、藻場の変化の実態や海水温の変化等に注視しながら、大学等の研究機関と連携し、継続して原因究明及び対策に取り組んでまいります。その過程で、既存海藻種の存続が困難であると判断される場合は、地元の意向を確認しながら、高水温に適した南方系種の導入等についても慎重に議論を進めるべきであると認識しております。

また、栄養塩の欠乏も藻場衰退の一因と考えられることから、森、川、里、海における生態系の適切な連環の必要性を再認識するために、産業間の横断的な連携による情報交換、対策の検討等の柔軟な対応が必要であると考えております。

対馬の豊かな海の恵を次世代につなげるためには、藻場の回復は今取り組まなければならない重要な課題と認識しておりますので、「自立と循環の宝の島 対馬」の実現のために、地元と一体となって取組を推進してまいります。

次に、島で暮らす将来を担う子どもたちへの継承についてでございますけれども、まず、林業についてでございますが、私たちの暮らしの変化とともに、森林との関係が薄くなってきたことや所有者不明森林が増加することにより、山の手入れが行き届かず、多面的機能が失われて、地域

の農林水産業にも大きく影響することが広く知られております。

現在、国が進める森林経営管理制度により、対馬市は森林所有者の意向を確認し、森林経営計画を立てて森林を整備する事業を推進しております。

今後は、手入れが行われていない森林の整備を促しつつ、森林を経済ベースで活用する地域経済の活性化を進めて、次世代につなぐ持続的な森林環境の整備に取り組んでまいります。

次に、農業についてであります。質問にありました耕作放棄地は対馬全体で512ヘクタールあります。そのうち、再生利用が可能な遊休農地は134ヘクタールとの調査結果であります。この農地では、新たな利活用を検討し、対州そばの栽培で活用するなど、耕作放棄地解消につながる事業を展開しているところでございます。

また、農地中間管理事業を積極的に行い、青年等新規就農者に対する給付金事業などを活用して、農業の担い手対策と農地の集約を行っております。

また、議員の質問にあります将来を担う子供たちに対しても、現在、学校単位で取り組むシイタケの栽培体験や緑の少年団活動が行われており、今後も市有林を活用した植林体験や里山の体験メニューを関係団体と連携して創設するなど、体験を通して学び、心から慣れ親しむことで、将来を担う子供たちの育成につなげていくことが私たちに課せられた使命と感じ、今後取り組んでまいりたいと存じます。

以上でございます。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） まず、初めに気候変動について少し触れさせていただきたいと思っております。

今年の10月31日から2週間ですか、イギリスで国連気候変動枠組条約第26回締約国会議、通称COP26が開催されておりました。会場の外には世界各国から多くの若者が集結するなど、盛大な会議となっております。この中では、気温1.5度の目標を達しなければ、次世代を担う子供たちに取り返しのつかない事態に発展する。今まで以上に将来世代への配慮が求められております。

今回のCOP26には、日本からの未来を担う4名の高校生が参加しております。このことは、市長は御存じでしたか。

気候変動に関しましては、2030年までの10年間の取組が重要とのことで、今から270年前の産業革命以前の1.5℃の目標に向かって世界が努力するということが正式合意をされているということで報じられておりました。

ちなみに、270年前の二酸化炭素濃度は280ppm、今現在は400ppmが観測され、その濃度は40%以上増加していると報告をされておりました。

また、今から24年前の1997年、平成9年12月には、地球温暖化に関して京都会議、通称これはCOP3が開催され、先進国において二酸化炭素を含む6種類の温室効果ガスの排出削減の数値目標が京都議定書として、さらに2015年、これはパリ協定、温室効果ガス排出削減等のための新たな国際枠組みが採択をされております。

さて、本市の空模様はどうでしょう。各家庭の電力供給には不可欠な事業所がほぼ中央にございまして、火力発電所ですか、国内の工業地帯と比較しますとごく僅かなCO<sub>2</sub>排出量と考えています。今、世界や国内では化石燃料から海洋や地上での風力発電。本市でも一部でございませけれども、風力発電やソーラーパネルなどが稼働しております。

今後のソーラーパネルとか、この風力発電とか、対馬市として、もし計画、お考えがございましたら、一言お願いをいたします。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 対馬市といたしまして、新たなエネルギーの計画はないかということでございますけれども、今現在、ソーラーに関しては、各個人の家庭のほうで屋根等に掲げられている計画、そしてまた民間事業者が計画されるソーラーパネルの大規模な工事につきましては、平瀬原の地域でかなりの面積を計画し、実施をもう既にされているところでありますけれども、そのほかについてはまだ私は聞いておりません。

ただし、実はこの11月28日でしたか、ORCの60周年記念のイベントがありましたときに、浅茅湾を中心とした対馬の空の遊覧飛行ということで市内の子供たちが搭乗されておりました。ここに私も搭乗させていただいて、空からこの対馬を眺めたときに、特に巖原近辺では、あらこんなところにかんりのソーラーパネルがあるねというような視察が見受けられました。ここは、また私も後で調べてみたいと思っております。

そういう形で、今現在、新たな計画はちょっとまだ確認はしておりませんが、市といたしましてそのような計画があったときには力強く支援をしてみたいと思っております。

そして、またもう一方の洋上風力発電でございませけれども、これは、今現在、環境省のほうからも助成を頂き、その洋上風力に向けた調査等を今現在しているところでございます。ただし、今現在、事業候補付近の海面を利用をしてある漁業者の皆様の御理解等をまだ最終的に頂いた状況ではないというようなことであります。

そういうことで、市といたしましては、今、議員おっしゃられたように、将来的なクリーンエネルギーを確保していくためにも、このソーラー発電そして洋上風力発電等の整備は、大変重要ではないかというような認識をしているところでございます。

以上です。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 計画は、十二分に今後進められるということで認識いたしましたので、ぜひ推進のほうをお願いしたいと思います。

気候変動や温暖化など近年の異常気象によって本市でも大雨洪水や災害、それから温暖化の影響で海水温の上昇もございますけれども、私たちの小中学生、高校生の頃の藻場は、海藻類が極めて豊富でありましたが、御承知のとおり近年では残念な結果となっております。このように、気候変動、温暖化による影響は顕著と言えます。

ここで、資料をちょっと作成しておりますので、御説明したいと思います。

これからの資料は、対馬の現状と課題という報告書の数値を参考にしております。このグラフでございますけれども、1965年、昭和40年から2015年、平成27年までの50年間の5年ごとの本市の温度変化を表しております。左が年間最高気温、それから右は年間最低気温を表しております。最高気温が高かった年は2010年、平成22年に34.6度が記録されています。次に、年間最低気温でございます。右側の黄色のグラフでございますけれども、1970年、昭和45年にマイナス6.4度が記録をされております。

年間最低気温でございますけれども、市長や副市長は裕福な御家庭で育ってあると思いますので、ハンカチはポケットにお持ちじゃなかったかと思います。当時の私の周りでは、学生服の袖口を代用せざるを得なかった。その代償として、黒い生地が真っ白くなったその記憶がございます。

いずれにしても、この資料でお分かりと存じますけれども、本市の50年間の最高気温も最低気温も、近年では地球温暖化による上昇傾向がうかがえるのではないかと思います。

次の資料でございますけれども、これも同じように1965年から2015年までの50年間の1時間当たりの降水量を表した資料でございます。参考ですけど、1時間当たりの最高降水量は1980年、昭和55年に98ミリ、最低降水量は1990年、平成2年に31ミリが記録されております。この時代の災害情報を調べておりましたところ、長崎を含む九州各地で集中豪雨による災害が確認をされました。このように、地球規模による気候変動により、本市の豊かな海に影響があったことがうかがえます。

さて、先月まで気温が高く、本市の至るところで、紅葉の季節でありましたけれども、過去の状況を確認をし、なおかつ考えていきますと、紅葉そのもののコントラストが薄いように感じられました。これは、やはり山の恵、森林の状況が少し栄養等が低下してるんじゃないかと感じております。

先ほど、市長のほうからも御説明がございました。本市の9割を占める森林面積は6万3,204ヘクタール、うち私有林面積が5万8,164ヘクタール、全体の92%を占めております。一部の森林の荒廃は、有害鳥獣の影響と相まって、かつ所有者の高齢化などにより手入れ

が行き届いてないということは市長も感じられていると、先ほど御報告を頂きましたので、同じような意見だろうと思っております。

特に、森林資源の大きな役割、これは二酸化炭素の吸収、それから山肌の災害防止など大きな役割を担っております。

次に、農業の現状はどうでしょう。

日本人は農耕民族から始まっております。くわや牛などで耕した時代から、現代社会では様々な農機具によって作業効率も高まっております。かつ、収穫も安定していると感じております。

また、一部でございますけれども、ドローンなどによる収穫時期や空中からの肥料等の散布、この作業などがAI機器の利活用が盛んに行われております。

本市の農業分野は、就農者の高齢化もございますけれども、稲作、肉用牛、鶏飼育、各種野菜などの農産物を個人や事業所で、また若年層で経営をされております。このような農産物は、JA対馬が中心となって農村地域や従事者の支援を行っておりますけれども、過去に大きな事案でトラウマになって、本来の支援が、農協自体の御支援が薄れているのではないかと。何もこのことはもう萎縮することなく、もう少し伸び伸びと進められていいんじゃないかという期待をしております。

このことにつきまして、農業の従事者、それからJAの理事さんからこのようなお言葉を頂いておりますので、機能維持、しっかりと取り組んでいただくとともに、市のほうの後方支援を是が非でもお願いしたいというふうに考えております。

市長は、漁業分野に長く携わっておられましたけれども、今までの説明で、本市の林業や農業分野の取組に関して率直な御意見をもう一度お願いできないでしょうか。よろしく申し上げます。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 農業、林業等のこれからの持続的な活動をしていくためにはどのようなことが必要だろうかというようなことだと思います。

その前に、先ほどこの温暖化の関係でいろいろと教えていただいたところではありますけれども、実は、私も小学生の頃は黒の学生服を着せられたときには、袖口がもうかばかばになって、真っ白になったということは、今でも記憶しておりますし、私たちの小さい頃には川やため池等で冬場は氷遊びをしたり、また学校の行き帰りには道路の横ののり面に大きなつららがはなのように垂れ下がっていたというような記憶も今ございます。そういうことで、かなりの温度が上がってきたのではないかなというふうに危惧しているところであります。

農業、林業の関係についてでありますけれども、まず、先ほども答弁させていただいたように、この森林におきましては所有者不明の森林が増えてきていて、それぞれの森林のほうの手入れがなかなか行き届いていないというようなことから、洪水がかなり量が増えてきておりますので、

こういったときにまた災害を誘発しやすくしているのではないかとこのように危惧しております。

そういう関係もありまして、今年度、森林組合のほうと協定を結びまして、森林組合のほうに市有林等の間伐そして管理をしていただくと、その上でまた市のほうには幾らかの間伐で得た料金等はバックしていただくというようなことで協定を結ばせていただいております。

一方、農業のほうにつきましては、やはり対馬は対州そばがメインであります。そういうことで、できる限りこの対州そばを振興していくように、反当たり幾らかだったかちょっと私も今記憶にはございませんけれども、助成をしたりしながら、対州そばの増産に向けて振興策を進めていきたいというふうに思っておりますし、これが、対州そばが、今、都市部のほうからも欲しいという話は私のところにも来ておりますけれども、なかなかこれを向こうのほうまでに送るまでには至ってないということも聞いております。そういうことで、できる限り対州そばの増産に向けてこの耕作放棄地等の改良等を進めていきたいというふうに考えているところであります。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） ここで、参考でございますけれども、本市の第1次産業の就業人口について少し触れたいと思います。

昨年、国勢調査が実施されておりますけれども、まだ詳細なデータが報告されておられませんので、この数値につきましては、平成27年の実施とその5年前の数値の比較となっております。左が農業、それから中央が林業、それから右が漁業の就業人口ということで、農業、林業、漁業従事者の2010年、平成22年と5年後の平成27年の就業者を表したグラフでございます。農業従事者につきましては、5年間で585名から74名の減、それから林業は173から141、32名の減、それから漁業従事者が最も多くて2,599名から2,292名、300名以上の方々が従事から外れております。近年では、杉やヒノキなどの人工造林の間伐も、先ほど市長がおっしゃいましたように、盛んに行われております。この間伐材やチップ加工や自然木材はパルプなどの需要も高まって、安定した生産が行われているというふうに私自身も理解しております。

山に携わっています個人の事業者にお尋ねいたしました、本市は県下でも有数のシイタケ生産量がございます。それで、シイタケ原木伐採後にクヌギを植栽をするに当たって、有害鳥獣対策としてネット、どうしても囲う作業が平地と急傾斜地ではやっぱり作業効果に難があるということでございました。当然、個人作業でございますので、その作業には限界があるということでありましたので、本市の主要産業でもあります第1次産業の安定供給とその就業者へのより深い支援、対応が必要じゃないかというふうに考えております。

それで、昨年実施されました5年ごとの国勢調査の速報値が報告されておりましたけれども、この人口問題、日本の人口が政令都市を除いて減少傾向にあると。2015年から、昨年実施さ



れました2020年の国勢調査での5年間に、日本の人口は約94万人減少したと。かつ、65歳以上の割合でございますけれども28.6%、それから15歳以下の割合が11.9%、この65歳の割合は世界で最も高い、それから15歳以下の年齢層は11.9というところでございますので、これ世界で最も低いというふうに発表されておりました。

私の個人的な感想でございますけれども、高齢者の100歳のお祝い、長寿のお祝いがあります。このことは、これで非常に結構なことだと思います。

実は、いろんなイベント等で、私の知り合いの中にもお二方、お子さんが4名から5名いらっしゃる御家庭がございます。そして、イベントでお会いしますと、お母さんが前にそれから背中に2人、それから御主人が、今度は右左両手でイベント会場で行ってあります。

高齢者の表彰もそれはもう非常にいいことではございますけれども、こういった多くお子さんをお持ちの方も少しやっぱり表彰の台に上げる必要があるんじゃないかというふうに考えられますので、これはお子さんの多人数の御家庭の表彰も少し考慮されてはいかがでしょうか。これは、私の個人的な感想とそれから提案でございます。機会がございましたらぜひお願いしたいと思っております。

そろそろ時間が参ってますね。最後の資料でございます。

この資料でございますけれども、旧町別の人口と世帯数を表したグラフでございます。左が各町別の人口で、それから右の上が、これは人口の減少率、それから下は世帯数の減少率を表したグラフでございます。

1点ちょっと間違いがございました。2015年の国勢調査の数字の人口が31457となっておりますけど、コンマがちょっとずれておりますので御容赦頂きたいと思えます。

2015年の国勢調査から、先ほども申しましたけれども、5年前と比較しますと、2,950名、それから世帯数が1万3,393で、5年前と比較しますと420世帯の減少と。

それで、今回の国勢調査での対馬の確定値が出ておりました、人口の。これが、2万8,502名。前回、その2015年の5年前の調査と比較しますと、2,955名の人口減ということになっております。

右のグラフで見てお分かりと思えますけれども、この数値から見えることが一つございます。島の北部3町の減少率が高まっているのではないかと、こういうふうに確認はできています。このことを参考に、人口減に歯止めをかける施策にシフトしなければと感じています。

本市は、合計特殊出生率や出生数などから亡くなられた方々を差し引いた自然増加率は極めて低いという数値になっております。ここをいかに高めるかが鍵となっておりますので、このことに関して、市長のお考え、最後のお考えで結構です。最後で結構です。市長のお考えございましたらお尋ねしますが、新たな子育て支援策。

○議長（初村 久藏君） 市長、比田勝尚喜君。

○市長（比田勝 尚喜君） 人口減少対策ということでございますけども、この人口減少対策につきましては、対馬市でも一番の喫緊の課題ということで認識をしているところであります。そういうことで、できる限りの施策は進めているところではありますけども、なかなかその成果がまだ現れないということで、今後もブラッシュアップしながら、この人口減少対策には努めてまいりたいというふうに考えております。

○議長（初村 久藏君） 6番、伊原徹君。

○議員（6番 伊原 徹君） 実現に向けて、ぜひ進んでいただきたいと思っております。

過去は振り返ることができますけれども、決して戻ることはできません。対馬の空や海、山、里など、昭和の原風景や生活様式、豊富でありました資源の回復、これからの子供たちへどのように継承していくかは、今を生きる私たちに委ねられているのではないかと思っております。島の経済政策には、一部の地域への集中した人口構造ではなく、それぞれの地域が同じような利便性を持った生活ができるように求められているのではないかと思っております。島に生きる我々世代が御先祖を守り、さらに将来の子供たちも同様の生活ができるよう、集落の保全とともに住み続けられる島づくりを市民の皆様とともに築いてまいりましょう。

さて、私に与えられた時間が参りましたので、次の漁業関連につきまして、作元議員にバトンを渡したいと思っております。どうもありがとうございました。

○議長（初村 久藏君） 関連質問に入ります。

新政会、17番、作元義文君。

○議員（17番 作元 義文君） 新政会の作元でございます。関連質問の機会を頂きましたので、二、三点質問をしてみたいと思っております。

私は、水産業関係について、今、代表のほうで質問をされました。昭和から平成それから令和、この流れの中で、非常に厳しい状況に、今、水産業も立たされております。私も50年漁師をやっておりますけれども、非常に昔を思い出すと、今は何だというような悲しい思いにとらわれているときがあります。

今、代表のほうからもありましたように、まず藻場が枯れてしまった。これは平成10年ぐらいから、平成10年ぐらいまでは何とか藻場も確保されておりました。ヒジキも道路際へずらっと干されて、車がやっと通るぐらい。それぐらいのヒジキが取れております。カジメもそうですけれども。海は真っ黒に海藻でなびいておりました。そういった時代がだんだんなくなって、今はもう真っ白になっております。海の中は真っ白。

だから、資源が枯れてしまった、資源が狭められてしまった、これによって水産業の衰退が始まってるんだというふうに思います。